

## C 少子化要因の研究 I ～中山間地域における世帯の状態や社会経済的条件が出生に及ぼす影響の研究～（2020～2021年）

### ◇概要

本県は、全国的には高い水準の合計特殊出生率（以下、TFR）の水準にあるものの、依然として自然減は続いており、特に少子化要因の分析と必要な社会経済条件の整備は最重要課題の一つです。そこで、本研究では、県内で特にTFRの高い、中山間地域に位置する市町村を対象に、影響要因の総合的な分析を行います。特に、2020～2021年度は、世帯の状態や社会経済的条件が及ぼす影響および対策の方向性を中心に整理します。

### ◇課題と研究の目的

中山間地域において人口の縮小の抑止は最も重要な課題の一つであり、近年、様々な形で若者定住対策が展開され社会増に転じる市町村も散見されています。他方、自然減は続いており、特に少子化要因の分析と必要な社会経済条件の整備は最重要課題の一つとなっています。島根県中山間地域の市町村では全国のみでも出生率が高い例もあり、その出生力と影響要因について総合的に研究し、本県全体での対策の参考とすることが非常に重要です。以上をふまえ、本研究では、中山間地域における少子化要因のうち、特に、子育て世帯の子どもの人数に世帯の状態や子育ての環境が及ぼす影響および対策の方向性を整理します。

### ◇研究の方法

研究項目		目指す到達点
①影響要因の分析1 （世帯の状態分析）	⇒	■世帯の状態と出生の関係性（仮説）整理 ・世帯の状態：UIターン、家族構成、祖父母など親族による子育てサポート状況、所得水準、就労・通勤状況、生活時間等 ■出生力に影響を及ぼす要因の推定
②影響要因の分析2 （地域の子育て環境分析）	⇒	■地域の子育て環境と出生の関係性（仮説）整理 ・地域の子育て環境：保健・医療・福祉支援体制、教育環境、子育て世帯の就労条件・就業場所、地域の雇用力・産業構造等 ■要因分析結果に基づく対策フレームの提示 ■自治体自己診断シート試作

#### ①影響要因の分析1（世帯分析）

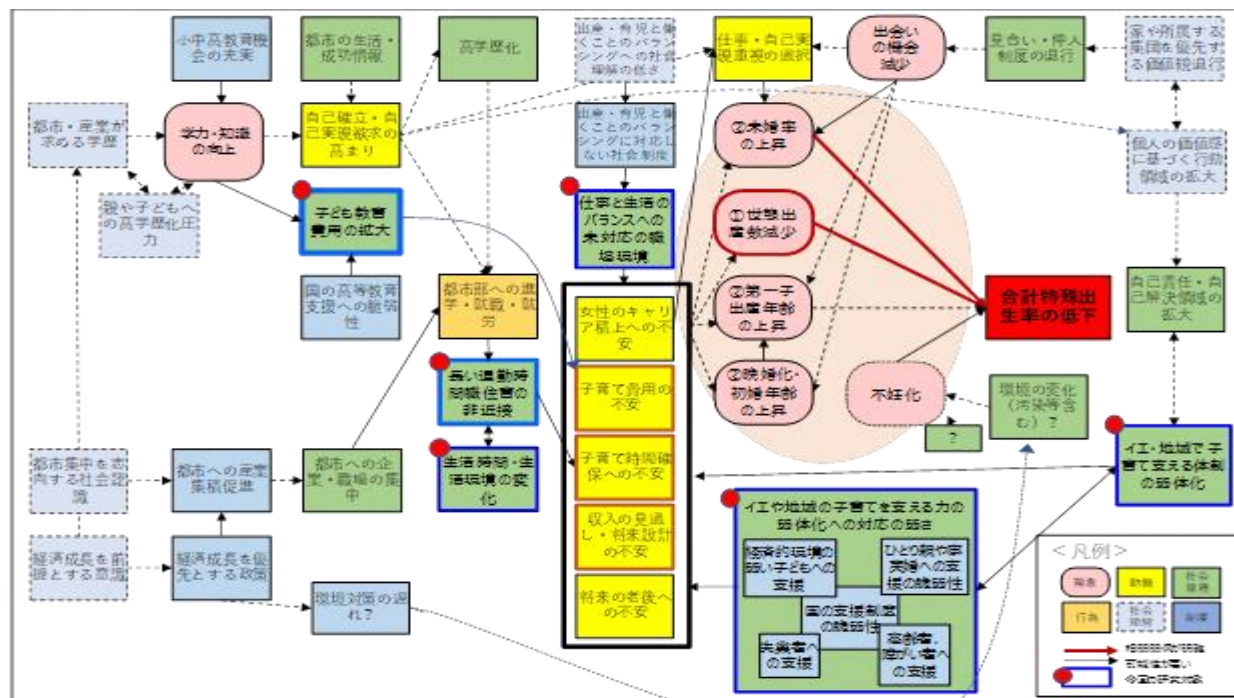
- ・中山間地域に居住する子育て世帯の家族構成、親族の子育て支援力、所得水準、生活時間、就労条件の総合調査・分析、世帯の状態と子どもの人数の相関関係を分析し、その関係性について仮説を構築する。
- ・県内3市町村程度で子育て世帯（小学生以下の子どもがいる世帯を想定）へのアンケート調査・ヒアリング調査、市町村関係部署ヒアリング調査を実施。

#### ②影響要因の分析2（地域の子育て環境分析）

- ・中山間地域の子育て世帯を取り巻く保健・医療・福祉支援体制、教育環境、子育て世帯の就労条件・就業場所、地域の雇用力・産業構造等を分析
- A: 子育て世帯の就業構造・就業場所や地域の雇用力・産業構造は国勢調査、経済センサス进行分析  
B: 企業・団体による子育て就労者の支援取組・効果はアンケート調査で把握  
C: 保健・医療・福祉支援体制、教育環境は既存資料、アンケート調査で把握
- ・調査対象地区：A・C 県内19市町村の分析 B: 県内外の40事業体を想定

# 研究のイメージ

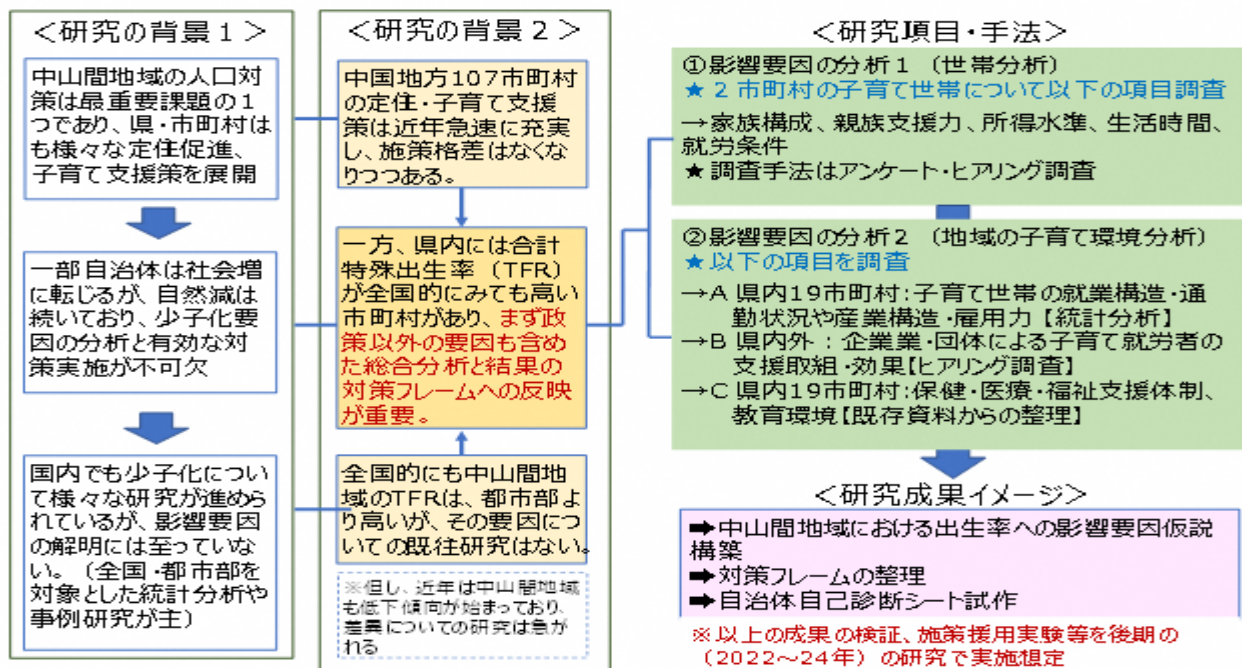
## 少子化への影響要因と要因間関係についての仮説



- 1 少子化要因として、大きく「婚姻に係る行動」、「社会経済的条件」、「世帯の状態」、「価値観形成環境」を仮説
- 2 本研究は、5年、世帯の状態(所得、家族構成、親就労状態等)社会経済的条件(地域の経済水準、行政サポート環境、コミュニティ環境等)から分析
- 3 中山間地域の子育て世帯が抱える上記の子育て資源の状態と子どもの数の関連性等を分析、また都市部との子育て資源の差異についても整理を試行

## 「少子化要因の研究 I」の枠組みと進め方

### 少子化要因の研究 I ～中山間地域における世帯の状態や社会経済的条件が出生に及ぼす影響の研究～ (2020-21年度)



## ◇連絡・問い合わせ先

島根県中山間地域研究センター 企画情報部 地域研究科

担当 研究企画監 有田 昭一郎、研究員 貫田 理紗

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207番地

TEL:0854-76-3833 FAX:0854-76-3758

E-mail: arita-syouichirou@pref.shimane.lg.jp HP: http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/